

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科



グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科長
皆川修吾教授

専門：国際政治学、比較政治学
1975年 オーストラリア国立大学社会科学研究所ロシア政治学
専攻博士課程満期退学・博士（政治学）
2000年 北海道大学名誉教授
2001年 愛知淑徳大学文化創造学部教授

市民社会意識と社会貢献 能力を備えた人材を、 理論と実践により育成。

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科は今年4月、愛知淑徳大学の7番目の大学院として開設。既存の3専攻（文学研究科英文学専攻、コミュニケーション研究科言語コミュニケーション専攻、文化創造研究科国際交流専攻）を統合し、多様化する現代社会でグローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。現在、院生18人、研究生1人が在籍し、半数以上が社会人か外国人です。学部・大学院一貫プログラム、修士論文に代わるフィールドスタディ・海外研修レポートの導入などで、多彩な教育研究が可能になってきています。

現代社会に合わせた 7つのプログラム

皆川教授 グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科（以下GCC）は、英文学専攻、言語コミュニケーション専攻、国際交流専攻という3つの専攻を統合して開設しました。別々の研究科だとコースの幅が狭くプログラムの数が少ないのと、教員スタッフが重複していたため、何とかうまく流用できないかと考えたのです。お互いに補完できる形でプログラムを多くした方が院生のためになると考え、一つの研究科になりました。結果、プログラムが7つになったため、言語文化コースと国際交流コースという2つのコースを便宜的に設けました。またこれまでの背景も

あつて、キャンパスが二つに分かれています。

馮教授 英文学と言語コミは長久手にあったので、言語文化コースは長丘なので、国際交流コースは星が丘キャンパスということになりました。

皆川教授 グローバルカルチャーとは普通、グローバルな市民社会のことを指します。現在の日本は社会の変化が激しく多様化が進み、一言で表現するのが難しい時代です。こうした時代にグローバルに活躍できる人材を育成しようと、時代に合った7つのプログラムを作りました。

馮教授 ただ語学ができるだけではなく、自分の得意な分野で、語学を生かして活躍できる人材を育てていきたいというのが夢です。



皆川教授 専門はできるが教養がないというのでは困ります。GCCでは、いわゆる普通の教養人を育てたいですね。学部の4年間は長いようで短い。4年は就職活動に時間を取られるため、教育はほとんど3年間だけというのが実情です。そのため教養も中途半端で終わってしまうので、GCCでは教養もしっかりやって、自分を豊かにしてもらいたいと思います。

学部・大学院を5年間で修了

皆川教授 本学では昨年度から「学部・大学院5年修了プログラム」、いわゆる学部・大学院一貫プログラムが始まりました。学部4年、大学院前期課程2年で通常6年かかるのを、大学院科目を学部学生に

安田明日香さん

愛知淑徳大学文化創造学部多元文化専攻を今年3月卒業し、「学部・大学院5年修了プログラム」に合格して、GCC研究科へ進学。来年3月に修了となる。

●研究テーマ「地域のニーズに合った日本語教育の提案」。海外の日本語学習者の学習目的から、国や地域別に求められる日本語教育のプログラムを作成し、最終的にそのプログラムを国や日本語教育団体に提案したいと思います。来年3月修了後は、海外で日本語教師をするつもりです。指導教員は山内啓介教授。



小笠原美江さん

南山大学外国語学部英米学科卒業後、中学校英語教諭として勤務。修了後は所属校へ復職の予定。

●研究テーマ「日本の英語教育における概念・機能アプローチの課題と可能性」。日本人学習者にとって、より効果的な英語教授法の研究を進めています。また、佐藤成哉教授の指導のもとで、小学校英語の教材開発にも取り組んでいます。指導教員は松本青也教授。



馮富榮教授

皆川修吾研究科長

勉強できるのは贅沢な時間。
有意義に使ってほしい。——皆川教授
語学を生かして活躍できる人材を育てたい。——馮教授

目標に合わせて 他の研究科の科目を履修

皆川教授 実際にGCCに入っている印象は。

安田さん 学部の際は学生の人数上、先生の話や聴講スタイルの授業が多かったのですが、大学院は学生同士が活発に意見を活発に交わります。それぞれの経験や国籍の違いから考え方も多様で、議論はいつも集中して研究できるいい環境だと思います。

祖父江さん 私の在学中、愛知淑徳大学は文学部だけの単科大学でした。卒業して二十数年たちますが、今は其学のユニバーシティになって、校舎も増えて図書も充実して、まるでパラダイスだわというも思っています。私は外国人にビジネスマナーを教えています。クラスの留学生に中国や韓国でのマナーを聞くこともあり、日本のやり方と比較したりできます。

小笠原さん ほかの研究科の授業を取れるというのが魅力です。以前から心理について学びたいと思って

いたので、心理学研究科の授業をいくつか取りましたが、とても勉強になっています。また、大学に無理を言ってお願したのですが、教育学科の授業も取っており、今は小学校の教員免許取得という目標もできました。ただ授業を一杯取っているので、毎日大変ですが。

皆川教授 小笠原さんは臨床心理士の資格にも興味を持っているそうですね。

小笠原さん はい。将来的に臨床心理士の資格を持った教員になりたいと思っています。年々、さまざまな問題を抱える生徒が増えており、何とか力になれる方法はないかと考えているからです。愛知淑徳大学の心理学研究科は臨床心理士第1種指定大学院ですので、少しでも勉強できればと授業を取らせていただいています。

馮教授 心理学まで。二石三鳥ですね。小笠原さん はい、取りたい放題取っています(笑)。

教育スタッフの充実

皆川教授 両コースとも教育スタッフは充実していますが、国際交流

コースでは特に榎田勝利先生とブイチトルン先生が社会貢献、ボランティアの世界で知られています。こういうスタッフが揃っている大学は少ないと思います。修了後は実際にNPOやNGOを立ち上げて活動するのもいいのですが、別の職業に就いた場合にも、常に国際協力の意識を持つことがその人の人生を豊かにします。その意味で、教員を目指す人には国際交流の科目も履修していただきたいですね。

安田さん 私は修了後、日本語教師としてどこで教えるか、まだ決めていませんが、異文化理解力や歴史認識は必須だと思うので、国際交流の授業も取っています。

祖父江さん ビジネスマナーを教える方なのですが東南アジアの皆さんなので、私も大いに勉強になると思っています。後期に取るつもりです。

皆川教授 教育スタッフの特徴ですが、比較的若い先生が多いことと、外国人の先生が多いこと。それに多くがPh.D、博士号を持っていることですね。

馮教授 関連科目では韓国語、ロシア語、タイ語、ベトナム語、フランス語

グローバルカルチャー・ コミュニケーション研究科



言語文化コース コミュニケーションプログラム 前期課程1年
祖父江正子さん

愛知淑徳大学文学部英文学科卒業後、国際センター、外資系の航空会社勤務を経て、現在はビジネスマナー講師として活躍中。

●研究テーマ「Business Etiquette of 21 century in corporate Japan」。社員研修に取り入れられたり、さまざまな本が出版されているビジネスマナー。近年、これほど求められるようになった理由、また現在のマナーのポイントはこれでもいいのかを研究するつもりです。指導教員はEdwin R. McDANIEL教授。

をネイティブの先生が指導します。

皆川教授 それと関連科目で非常にいい先生を名古屋大学からお呼びしています。東南アジア関連の社会事情に詳しい木村宏恒先生と、国際政治が専門で日中韓の共通項を独自の視点で見い出された姜東局先生の授業は非常にためになります。是非、取って下さい。

英語、中国語の 運用能力の重視

皆川教授 G C Cの修了要件は30単位以上修得ですが、英語で行う授業だけで30単位を取れるように組んでいます。つまり日本語を知らなくても学ぶことができるのが大きな特徴です。

馮教授 海外研修を入れると、中国語だけでも2年間で30単位取れます。

皆川教授 ネイティブの先生の授業だけで修了要件を満たせるというのは、他大学にはありませんね。

祖父江さん 私の指導教員はマクダニエル先生なので、普段から授業は英語です。修士論文も英語で書くことになります。

皆川教授 海外研修の予定は。

祖父江さん 行ってみたいのですが、子供がおりますし、最初からそちらの道はなかったものと思っています。ただこの年になって2年間勉強させていただいて、その成果を修士論文という形で残すことになるので、とても大切に重いものだと受け

止めており、頑張るつもりです。

安田さん 私も必須科目がまだ残っていることもあり、海外研修には行きません。次に海外へ行く時は働く時だと思っています。

小笠原さん 私は来年、長期海外研修に参加したいと考えています。ですが、修士論文も書く予定です。

皆川教授 それはすごい。修士論文の人は研究中間報告会というのを行います。

馮教授 2回ありますが、この報告を聞くと、皆さんが自分の研究にどれだけ打ち込んでいるか、どれだけ自分を一生懸命伸ばそうとしているかが分かりますね。

皆川教授 勉強というのは贅沢なものなんですね。どれほど贅沢な時間か、社会人になられるとよく分かると思います。ですからその時間を有意義に使ってほしいですね。先生たちもそれができる限り協力して、学生の皆さんと交流していきたいと思っています。

進路は言語関連の教師、 地方公務員など

皆川教授 G C Cは開設1年目ですが、来年3月には「学部大学院5年修了プログラム」で入った院生が修了します。その後の進路ですが、言語文化コースなら言語関連の教師、国際交流コースならNPOやNGOの幹部、ジャーナリストという道もあります。また、国際交流に力を入れている

自治体が増えているため、地方公務員が多くなると予想しています。

企業の方と話していると、実際に働ける期間や給与を考えた場合、学部学生の方が望ましいとのことですが、最近では国際的な教養のある人を即戦力として使いたいという企業も増えてつあります。私たちは、社会の変容を先取りする研究科としてG C Cを作ったので、こうした傾向はありがたいですね。

また、アカデミズム指向の優秀な学生には後期課程への道も開かれており、両コースの教授陣が個別に、しかも定期的に研究論文指導できる体制を整えています。

馮教授 5年修了プログラムの修了生なら、まだまだ年齢も若く、即戦力になると思います。

皆川教授 G C Cは、今までの日本人の殻を破って、何事もグローバルな視点で見ることのできる社会人を育成したいという意図で始まりました。この目的はずっと変わらないと思います。社会情勢や要請に応じて、カリキュラムは微調整することが出てくると思います。私は海外研修が長く、ほぼ20年間いろんな国にいたもので、異文化コミュニケーションというものは肌で知り、柔軟に実践してきたつもりです。そんな具合に、G C Cも時代に即して柔軟な研究科でありたいと思っています。